

# 西からつくる、未来のカタチ

やっぱり、未来は面白いほうがいい。



**JCCA** Japan Civil Engineering Consultants Association  
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

**西日本4支部 合同提言**

西日本は、歴史、文化、豊かな自然、おいしい食材の宝庫であり、他にはない魅力的な地域であるとともに、大阪、福岡都市圏を中心に経済を発展させ、アジア各国とさまざまな面で関係を深めているところです。また、2025年に開催される日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)は、2020年東京オリンピック・パラリンピック後の大阪・関西、そして日本の成長を持続させる起爆剤として期待されています。加えて、これまでも地域の中心にある瀬戸内をはじめとした沿岸部においては国際競争力の高い基幹産業が集積し、中山間地域においては個性的で魅力の高い中小都市が散在するなど、それぞれの資源や個性を生かして地域経済、産業の活性化が図られてきています。

他方、国や地方自治体が地方創生の取り組みを推進しているにも拘らず、東京一極集中に歯止めがかからない状況が続いています。このような中、この度の新型コロナウイルス感染拡大は首都圏に甚大な影響を及ぼしたことから、国のリスク管理の観点からも改めて東京一極集中の是正の必要性が認識されました。さらに、リニア中央新幹線開業を契機に首都代替機能の整備や産業の地方分散化を進めようという動きが出てくれば、西日本の地方創生や連携のあり方について議論が深まることが考えられます。

このような認識のもと、(一社)建設コンサルタンツ協会では、2018年に近畿・中国・四国・九州の4支部が連携し、西日本4支部連携『意見交換会』を設立するとともに、長期的な視点に立ち、2050年のあるべき姿の実現に向けて合同提言を出すことに至りました。そこでは、「南海経済軸」を大きな軸とし、“西日本における都市圏域のあり方”や“西日本における国土軸のあり方”を検討してきました。

私たちはこれまで、合同提言を策定するために『意見交換会』を2018年～2022年に合計16回開催し、近畿・中国・四国・九州の4支部がそれぞれの地域の発展に留まらず、2050年における西日本のあるべき姿について意見を交換し、合同提言『西からつくる、未来のカタチ やっぱり、未来は面白いほうがいい。』を取りまとめました。

私たちはこの活動を通じて、若い技術者たちに積極的かつ主体的な参加を勧めることにより、西日本4支部の連携強化と“希望が持てる”業界への変革を目指し推進してまいりました。また、関係団体と連携して構想実現に向けた活動を展開することにより、地域のニーズに即したインフラ整備と地方創生に貢献していきたいと考えています。

### 西日本4支部連携『意見交換会』合同提言作成WG

近畿支部代表	野呂 竹志
中国支部代表	木原 智晴
四国支部代表	大村 史朗
九州支部代表	田中 智行

はじめに

---

1. 西日本を取り巻く社会背景

---

- 1) 社会状況 ……P1
- 2) 西日本のポテンシャル ……P3
- 3) 西日本が目指す将来像 ……P4

2. エリア・リーディングプロジェクト

---

- 1) 近畿地方 ……P5
- 2) 中国地方 ……P6
- 3) 四国地方 ……P7
- 4) 九州・沖縄地方 ……P8

3. 西日本コネクテッドリージョン構想の推進

---

- 1) 西日本コネクテッドリージョン構想 ……P9
- 2) 西日本コネクテッドリージョン形成に向けた取り組み ……P10
- 3) 西日本コネクテッドリージョン構想への期待 ……P13
- 4) 西日本コネクテッドリージョンの全貌 ……P17

建設コンサルタンツ協会 支部長メッセージ ……P19

---

おわりに ……P20

---

参考資料 ……P22

---

# 1. 西日本を取り巻く社会背景

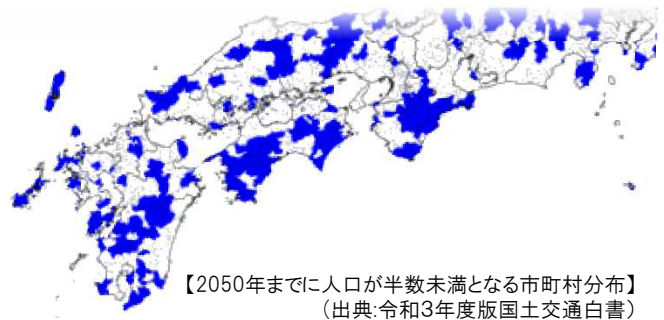
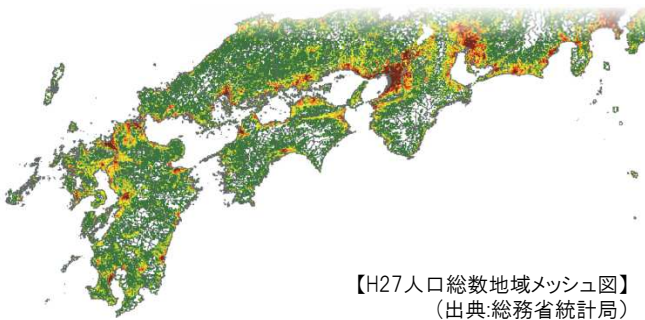
## 1) 社会状況

人口や経済、交通ネットワーク、自然災害、観光など、西日本を取り巻く社会状況は以下のとおりです。

### ① 人口

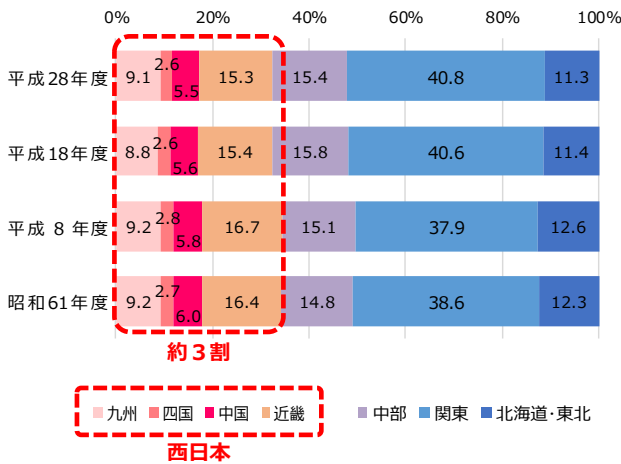
西日本の人口は約4,700万人と、全国の約4割を占めており、大阪都市圏、各地方の府県庁所在地や主要都市に人口が集中しています。

このままでは、少子・高齢化や人口減少により、地方の過疎化が加速度的に進むことが懸念されます。



### ② 経済

西日本の国内総生産(GDP)は約176兆円(平成28年度)であり、全国の約3割を占めています。推移を見ると西日本のシェアは横ばいの傾向です。



【地方ブロック別総生産の構成割合の推移】  
(出典:各年度の「統計表(県民経済計算)内閣府」を基に作成)

### 検討課題

- ◆ 世界でも類を見ない首都一極集中、厳しい地形条件とあいまった地方への低いアクセス性は、地域間格差を助長し、日本の持続可能な発展の制約となっています。
- ◆ 新たな価値を創造し、「真の豊かさ」を実感するためには、地域間でヒト、モノ、カネ、情報が高速で対流し、つながる、交流の基盤が必要です。

### ③ 交通ネットワーク

島々から構成される西日本は、豊かな自然環境や文化を保有する一方、地理的なハンディキャップを抱えています。そのため、高規格幹線道路のミッシングリンク・空白地帯が残存しており、例えばニア中央新幹線は大阪までにとどまり、北陸新幹線は金沢～敦賀間開業が迫るものの大阪にはつながらないなど、新幹線ネットワークも未だ概成していません。

【高規格幹線道路等の整備状況】  
(出典:令和4年度版国土交通白書)



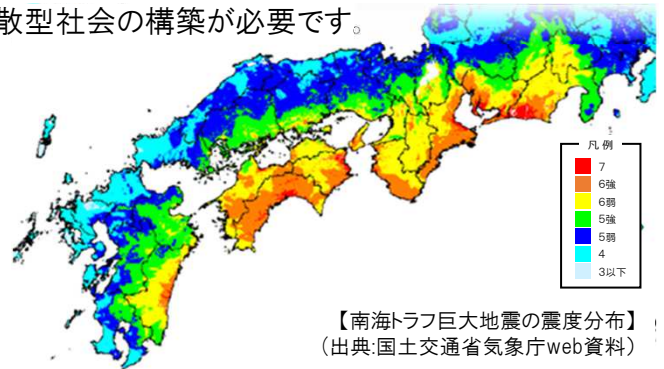
【新幹線鉄道網の現状】

(出典:令和4年度版国土交通白書)



### ④ 自然災害

令和2年7月豪雨など、西日本では自然被害が激甚化、頻発化するとともに、南海トラフ巨大地震も切迫しており、広域災害に備えた国土強靱化、リスク分散型社会の構築が必要です。



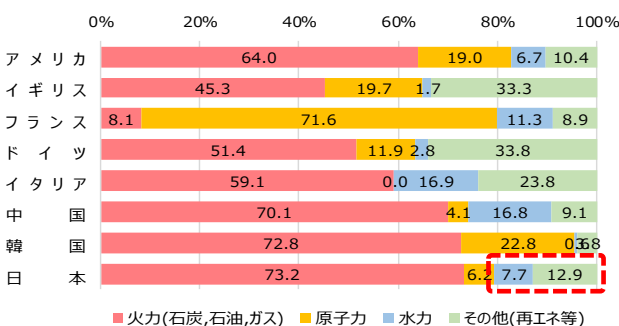
### ⑤ 感染症対策・価値観の多様化

今回のコロナ禍では、人や自然とのふれあい、ものが届くことのありがたさ等、リアルな貴重さが再認識された一方、多くのことがデジタルの世界でもできることが明らかになりました。価値観が多様化するなか、将来の新たな感染症対策も講じたうえで、テレワークや兼業・副業、多地域居住など、自分の価値観、ライフスタイルにあった生き方を自由に選択できることが望めます。



### ⑦ 脱炭素/カーボンニュートラル

地球温暖化への取組は、成長の機会とも捉えることができます。エネルギーを安定供給しつつ環境負荷を低減する観点から、再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地方での分散型エネルギーシステムの形成、そのネットワーク構築など、人材、投資を呼び込む取組が必要です。



【主要国の発電電力に占める各電源の割合2019】  
(出典:エネルギー白書2021経済産業省 資源エネルギー庁)

### ⑥ 観光・インバウンド

西日本は魅力ある観光地を多数有するものの、訪日外国人の行き先は主要地に集中しています。バリアフリーやユニバーサルデザイン、交通ネットワーク強化、感染症対策を継続しながら、2025年大阪・関西万博も見据えたインバウンドや国内観光の急回復に備え、地域の特徴ある豊かさを活かに転換する取組みが求められます。



【訪日外国人数が多い都道府県】  
(出典:訪日外国人消費動向調査2019 国土交通省 観光庁)



### 検討課題

- ◆ IoT、ロボット、AI、ビッグデータといった社会のあり方を変える技術が進展しています。
- ◆ 災害、感染症、価値観の変化等、課題を越え発展するには、社会のデジタル化を前提とした、都市圏域の戦略的再構築が必要です。

## 2) 西日本のポテンシャル

西日本の近畿、中国、四国、九州の各地方では、以下に示すポテンシャルを有しています。

### ①近畿地方 『国際ゲートウェイ』

近畿地方は、我が国を代表する歴史・文化遺産、高度な学術・研究機能や産業等、多彩なポテンシャルを有し、首都圏に次ぐ経済圏域として発展するとともに、歴史・地理的特性を活用し、外国人をはじめとする多くの観光客が訪問する地域です。

リニア中央新幹線の延伸によるスーパーメガリージョン構想や大阪・関西万博の開催など、世界からヒト、モノ、カネ、情報をひきつける国際ゲートウェイとしての機能を果たしています。

### ②中国地方 『無限の宝庫』

中国地方は、多様・多彩な地域資源に恵まれており、伝統工芸や地場産業が発展し、「オンリーワン企業」「ナンバーワン企業」が多く存在します。

瀬戸内海に面した山陽地域では、都市機能や各種産業が集積するとともに、歴史・文化遺産等、瀬戸内の自然・食・芸術といった地域資源が豊富です。

日本海に面した山陰地域や中山間地域では、豊かな自然や歴史・文化遺産、温泉地、個性的な食文化など地域資源が豊富に存在する地域です。

### ③四国地方 『4つの個性の集合体』

四国地方は、四方を海に囲まれ、美しい自然景観、独自の歴史・文化、芸術など、多種多様な地域資源が存在します。また、野菜・果実、海面養殖を中心に第一次産業の比重が全国より高く、個性豊かな食などが存在します。

また、四国遍路に代表される「癒し」「お接待」「おもてなし」の文化など貴重な資源を有する地域です。

LEDや炭素繊維など日本一、世界一のシェアを持つ企業が数多く存在します。

### ④九州・沖縄地方 『アジアのゲートウェイ』

九州・沖縄地方は、東アジアに近接し、我が国と東アジアとの交流・連携において重要な拠点となっています。都市的発展が進展する一方、豊かな自然環境を有しており、それらが調和した魅力的な地域を形成しています。

また、温泉地をはじめ、歴史・文化遺産等の地域資源が豊富に存在する地域です。

農林水産業の産出額は全国の約2割を占め、我が国の食料供給基地の役割を担っています。

西日本は、日本でも屈指の魅力を有する拠点都市、世界有数の風光明媚な景観を有するエリア、多様な地域資源を有するエリアで構成されており、各地方の特性を活かし、西日本が有するポテンシャルを最大限に発揮するための取り組みが求められています。



### 3) 西日本が目指す地域像

主要都市、瀬戸内「イノベーション・エリア」及び「サブ・アーバン・エリア」が相互に連携し、企業活動の更なる競争力強化など、地域経済・産業の活性化に取り組むことで、ヒト・モノ・カネ・情報を呼び込むエリアの形成を目指します。

#### 【西日本の拠点都市】

歴史・文化遺産や高い学術・研究機能、産業等が集積した近畿地方、東アジアと我が国の交流・連携の重要な拠点である九州地方には、日本でも屈指の魅力をもつ拠点都市があります。

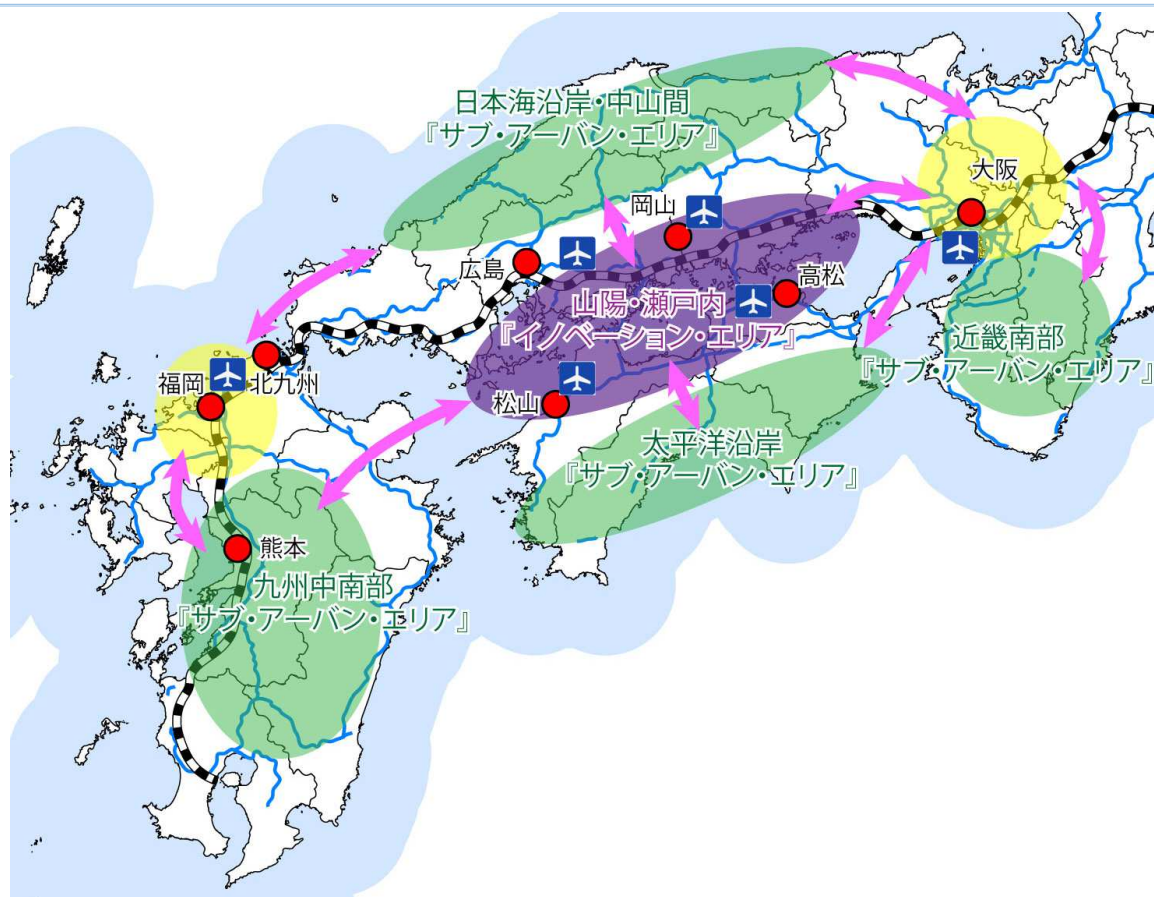
#### 【瀬戸内「イノベーションエリア」】

瀬戸内イノベーション・エリアは、近畿・中国・四国・九州の各地方に囲まれた世界有数の風光明媚な景観を有しており、「主要都市」や「サブ・アーバン・エリア」との連携強化や瀬戸内海のリゾート・観光開発により、大きな成長が期待できるエリアです。

#### 【都市部を補完する「サブ・アーバン・エリア」】

サブ・アーバン・エリアは、「近畿南部」、「日本海沿岸」、「太平洋沿岸」、「九州中南部」の4エリアがあり、それぞれの多様性・地域資源を活かしながら都市部を補完するエリアです。

主要都市、イノベーション・エリア、サブ・アーバン・エリアの機能を強化し、魅力的で活気に満ち溢れた西日本各地の魅力向上を図ります。



## 2. エリア・リーディングプロジェクト

### 1) 近畿地方

2050年近畿地方  
が目指す将来像

夢洲を中心とした国際ゲートウェイ機能の創出

建設コンサルタント近畿支部では、2016年と2018年に関西のインフラ整備に関する提言を公表し、2020年12月には、『緊急提言！今こそ立ち上がれ！“ミラーリング KANSAI”～ポストコロナの新しい日本～』を取りまとめ、公表しました。

このたびの『西日本4支部連携意見交換会 合同提言』では、近畿支部から公表した上記の提言を踏まえ、近畿地方での展開を次の3つの将来像として提案します。

#### 将来像①：『夢洲』に万博レガシーを活用した国際交流拠点を形成

大阪・関西万博を一時的な効果を得ることに留めず、博覧会後の広大な敷地を活用し、国際競争力強化に資する国際交流拠点(国際ゲートウェイ)として魅力ある空間を創出します。

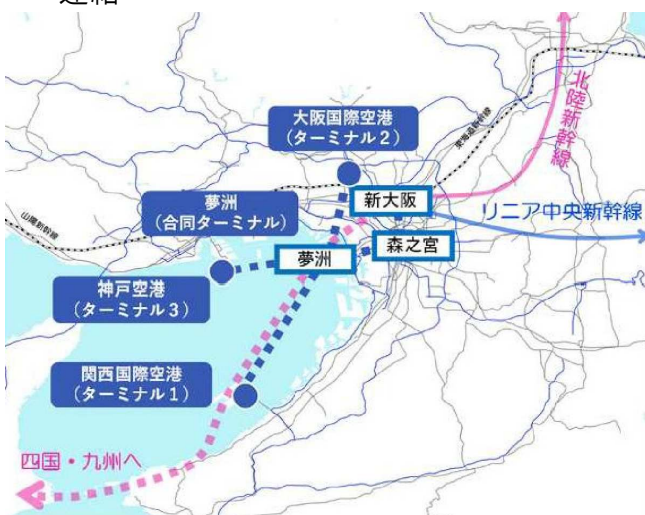
- 1) 万博レガシーの社会実装を進め、夢洲に魅力ある国際都市空間を創出
- 2) 関西3空港の合同チェックイン・ターミナルを設置することで、国際交流拠点としての機能を強化



#### 将来像②：関西3空港を一体化し、世界と結節

夢洲と関西3空港を高速鉄道ネットワークで結び、一つの空港として運用することで利便性を向上します。また、新大阪駅～国際交流拠点(夢洲)を高速鉄道・道路等で直結することにより、利便性・効率性を向上させるとともに、国際交流拠点の国内外人流・物流のハブ機能の向上を図ります。

- 1) 関西3空港を高速鉄道・道路等で接続し、トランスファー機能を強化
- 2) 北陸新幹線の延伸による、四国・九州地方との連結



#### 将来像③：豊かな地域資源を活かし魅力を向上

関西に豊富にある歴史・文化資源を観光拠点として整備し、拠点間を円滑に周遊できる鉄軌道・高速道路網の充実や新たな交通ネットワークの整備により、関西全域の魅力アップと個性豊かな地方創生を実現します。

- 1) ミッシングリンクを解消し、機能性の高い交通・通信ネットワークを整備
- 2) 京阪神主要都市と日本海・瀬戸内海・太平洋沿岸エリアを高速バスで連結
- 3) 歴史・文化・観光拠点を結ぶ交通ネットワークを整備





## 2) 中国地方

### 2050年中国地方 が目指す将来像

無限の宝庫！新たな価値を生み出す せとうち創造都市の形成  
～自然の恵みと地場産業・イノベーション産業の融合による都市づくり～



#### 主要なプロジェクト①：山陰新エネルギー拠点構想【日本海沿岸・中山間 サブ・アーバン・エリア】

##### 【カーボンニュートラルビレッジの構築】

- ・「日本海の風力を活用した洋上風力発電」、「中山間部を活用したメガソーラー」、「豊かな森林資源を活用したバイオマス発電」などにより、脱炭素社会の形成に取り組む、**カーボンニュートラルビレッジ**を構築
- ・地方の水資源・再生可能エネルギーを活用して水素を製造（グリーン水素）し、製造された水素をボイラー等産業分野の熱源として活用することで、地域内でエネルギー経済循環を担うことが可能、また、エネルギー（電気・ガス・ガソリン）確保のための域外への資金流出を抑制



＜カーボンニュートラルビレッジのイメージ＞

##### 【電気自動車を活用したエネルギー需給マネジメント】

- ・メガソーラーをはじめとする太陽光発電は、エネルギーの需要と供給のタイミングが必ずしも一致しないが、例えば、電動小型モビリティに発電したエネルギーを蓄電することで、モビリティをエネルギー貯蔵タンクとみなし、**地域の大型蓄電池**として活用することが可能



＜エネルギー需要マネジメントのイメージ＞

#### 主要なプロジェクト②：広島・呉・三原トライアングル構想【山陽・瀬戸内 イノベーション・エリア】

##### 【都市の賑わい拠点・交通拠点の構築】

###### ＜広島都市圏＞

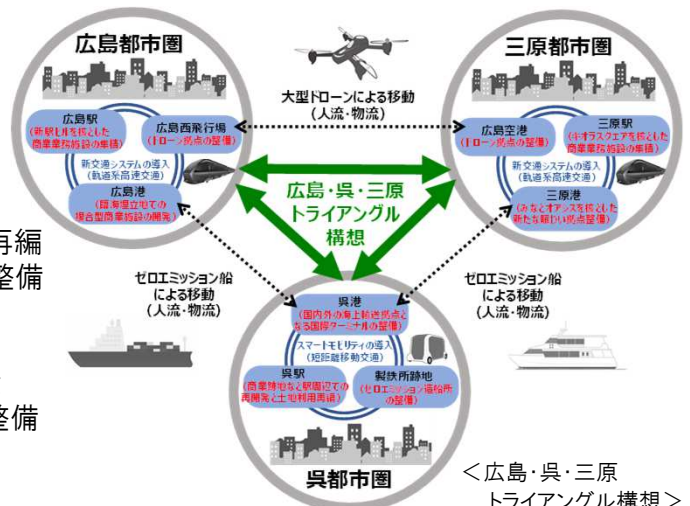
- ・広島駅：新駅ビルを核とした商業業務施設の集積
- ・広島港：臨海埋立地での複合型商業施設の開発
- ・広島西飛行場：ドローン拠点の整備

###### ＜呉都市圏＞

- ・呉駅：商業跡地など駅周辺での再開発と土地利用再編
- ・呉港：国内外の海上輸送拠点となる国際ターミナルの整備
- ・製鉄所跡地：ゼロエミッション造船所の整備

###### ＜三原都市圏＞

- ・三原駅：キオラスクエアを核とした商業業務施設の集積
- ・三原港：みなとオアシスを核とした新たな賑わい拠点整備
- ・広島空港：ドローン拠点の整備



＜広島・呉・三原  
トライアングル構想＞

##### 【都市間の新たな交通モードの整備】

＜空路＞・広島都市圏⇄三原都市圏：**大型ドローン**による移動（人流・物流）

＜海路＞・広島都市圏⇄呉都市圏⇄三原都市圏：**ゼロエミッション船**による移動（人流・物流）

### 3) 四国地方

2050年  
四国が目指す  
将来像

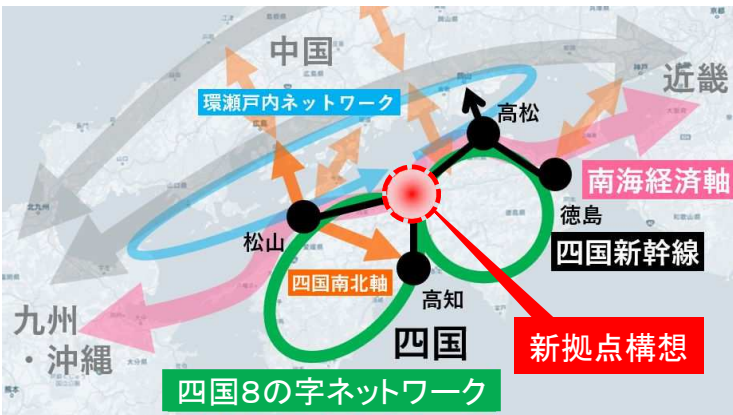
どこかの真似事ではなく、「四国らしさ」に磨きをかけ、  
訪れたい四国、暮らしたい四国へ

#### 高速・広域交通ネットワークの形成

#### 南海経済軸の形成、「新拠点」整備

四国8の字ネットワーク、四国新幹線を基軸とした高速・広域交通ネットワークにより、新たな国土軸:「南海経済軸」を形成。西日本コネクテッドリージョンを通じて三大都市圏、アジア、世界の需要をとりこみ、四国の強みを活かした、新たな価値創造を実現します。→「**つながる四国**」へ

また、瀬戸内海を介して環瀬戸内ネットワークを形成します。→「**西日本広域連携**」



交通結節点に、人流、物流、文化、観光の中核となる「新拠点」を整備。四国、近畿、中国、九州、アジア、世界との交流・対流を促進、支援します。→「**中枢中核都市間の懸け橋**」に

#### ネットワークを活用した新たな地域価値創造

高速+低速を切れ目なくつなぐ多様なモビリティを面的に配置し、太平洋岸サブアーバンエリアへの広域アクセスを強化。遍路文化を呼び水とする滞在型観光拠点整備等「四国らしいまちづくり」を戦略的に行い、持続的にヒトを呼び込みます。→「**訪れたい四国、暮らしたい四国**」へ



#### 環瀬戸内防災ネットワークの整備

新拠点は、環瀬戸内ネットワークの総合防災拠点としても位置付け、海に直結する防災拠点倉庫に緊急物資等を集積。圏域を超えた防災体制を構築し、南海トラフの巨大地震等のスーパー広域災害に備えます。

→「**安心して住み続けられる四国**」へ



## 4) 九州・沖縄地方

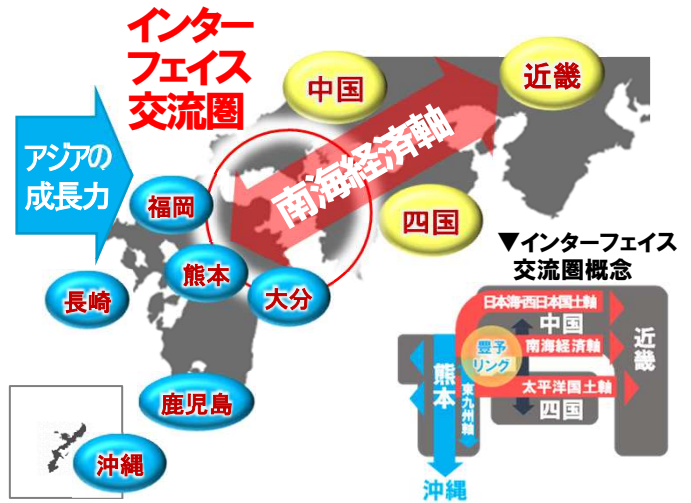
2050年  
九州・沖縄地方が  
目指す将来像①

### アジアクロスロード構想

**アジアクロスロードの拠点形成**  
九州・沖縄は、アジア地域との歴史的な繋がりが、海との繋がりが、物理的な距離を活かし、西日本エリアのゲートウェイとして、「**アジアクロスロード構想**」を掲げ、クロスロード拠点としての機能強化、西日本エリアとの交流強化を図ります。



**インターフェイス交流圏\*の形成**  
九州・沖縄は、南海経済軸を中心に、隣接する中国エリア、四国エリアと豊予海峡によるリングを活用し、**インターフェイス交流圏\***を形成させ、西日本エリアの魅力・価値を高めます。

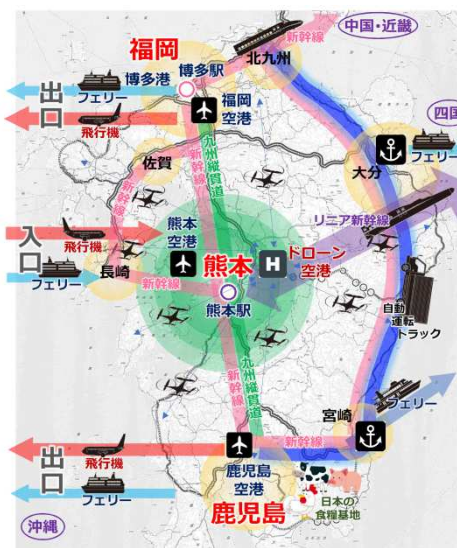


2050年  
九州・沖縄地方が  
目指す将来像②

### +ONE構想

**熊本に九州圏ハブ拠点の形成～人流や物流の多様化と高度化の推進～**

九州・沖縄は、県境を越えた人流・物流の高度化・多様化への対応、福岡一極集中の分散を図るため「+ONE構想」を掲げ、熊本に24時間稼働の九州内の交通網のハブ拠点を形成し、アジアをはじめ西日本エリアとの連携、九州内の交流促進を図ります。



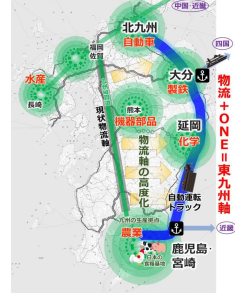
**人流+ONE⇒モビリティ、移動手段の追加**

観光とビジネスのシームレス化、シェアリングエコノミーなど、多様なライフスタイルが広がる中、新たにドローンが生活に欠かせないモビリティとして発展。熊本にドローン発着機能を持つ次世代交通拠点を形成。



**物流+ONE⇒東九州軸の追加**

九州における農業や製造業など主要産業が集積する東九州に物流の主軸を転換。ロジスティクス4.0が広がり、IoTやAIによる省人化が進展、各地の生産物の輸送手段は自動運転トラックを中心に効率化。



### 3. 西日本コネクテッドリージョン構想の推進

#### 1) 西日本コネクテッドリージョン構想

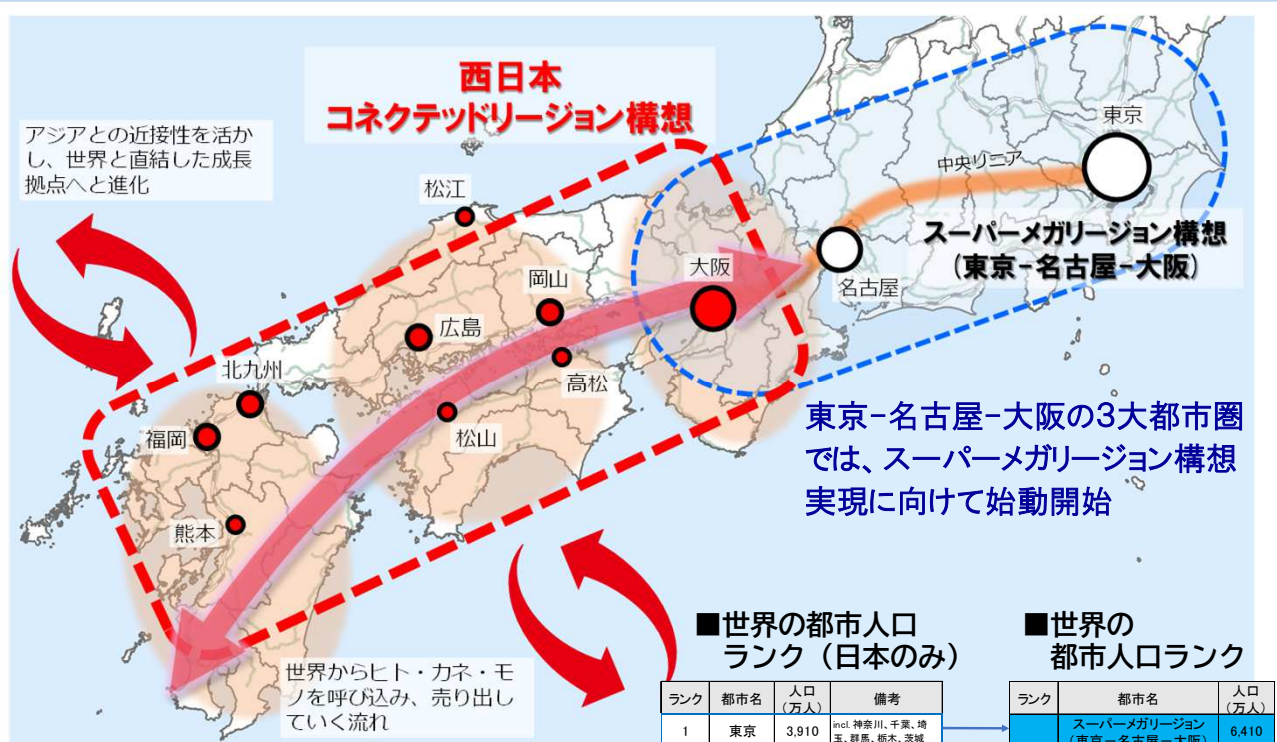
西日本の4つの地域をひとつの都市圏域に！！

《西日本コネクテッドリージョン構想》を提言します。

- 瀬戸内海を跨ぎ、各エリアのリーディングプロジェクトを広域インフラで繋ぐことで、西日本の隅々までヒト・モノ・カネ・情報を送り届けるコネクテッドリージョンを形成
- 西日本全体をひとつの圏域と捉えることで、新たな価値を創出します。

これらを実現するために、西日本地域で強化すべき取り組みを提案します。

1. 南海経済軸を新たに創生
2. 東西の国土軸を補完する南北・地域間アクセスを強化
3. 新技術を活用した多様な交通手段の実現を支援



- ・大阪はスーパーメガリージョン構想の最西端にあり、西日本エリアのゲートウェイ機能を有する
- ・西日本の主要都市の人口を束ねると、世界の都市人口ランキング5位の都市規模
- ・西日本の各地域のバラエティに富んだ資源を連携・交流により最大化し、西日本全体の底上げを図り、日本全体の経済活動を牽引

■世界の都市人口 ランク (日本のみ)

ランク	都市名	人口 (万人)	備考
1	東京	3,910	incl. 神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城
19	大阪	1,550	incl. 神戸、京都、奈良、姫路
39	名古屋	950	
232	福岡	230	
243	札幌	220	
354	北九州	150	
445	仙台	120	
457	広島	120	
533	那覇	100	
619	富士	80	
825	熊本	60	
859	大津	60	

■世界の都市人口 ランク

ランク	都市名	人口 (万人)
1	スーパーメガリージョン (東京-名古屋-大阪)	6,410
1	東京	3,910
2	ジャカルタ、インドネシア	3,540
3	デリー、インド	3,190
4	マニラ、フィリピン	2,400
5	西日本コネクテッドリージョン	2,270
5	サンパウロ、ブラジル	2,250
6	ソウル、韓国	2,240
7	ムンバイ、インド	2,220
8	上海、中国	2,210
9	メキシコシティ、メキシコ	2,150
10	広州、中国	2,150

出典: Demographia World Urban Areas 17th. Annual Edition: June 2021

## 2) 西日本コネクテッドリージョン形成に向けた取り組み

### 《南海経済軸》を新たに創生

東西国土軸を増強することで活力ある西日本の形成を目指します

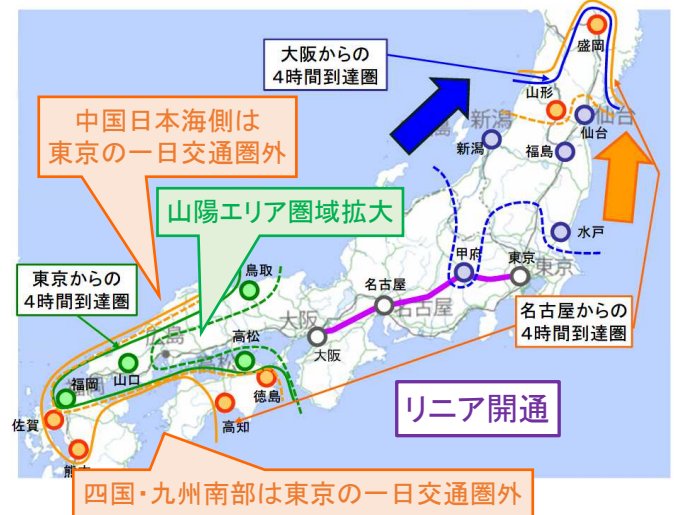
#### 【東京～大阪間リニア開通により世界を先導するスーパーメガリージョン形成が期待される】

2037年頃に東京～大阪間のリニア開通が予定されており、リニア及び新幹線の沿線都市間の所要時間が大幅に短縮し、ヒト、モノ、カネ、情報を引き付け、世界を先導する「スーパーメガリージョン」の形成が期待されています。

#### 【リニアの活力を呼び込む連携強化策が必須】

一方、リニア及び新幹線の空白地域となる中国日本海側、四国、九州南部エリアは巨大都市圏域から外れ、成長から取り残される懸念があります。

東京一極集中是正、首都代替機能確保、産業の地域分散という国内の課題解決、またアジアの活力も取り込むことによる日本全体の活性化のために、西日本の連携強化を図ります。



出典：国土交通省 国土の長期展望専門委員会資料に一部加筆

#### ●東京～大阪間リニア開通後の到達圏域の変化

#### 【新たな国土軸：南海経済軸の提案】

西日本の連携を強化する新たな国土軸：「南海経済軸」

＋ 既存軸の「日本海国土軸と西日本国土軸の強化」を提案します。



## 東西の国土軸を補完する南北・地域間アクセスを強化

陸・海・空が連携した地域内アクセス強化を目指します。

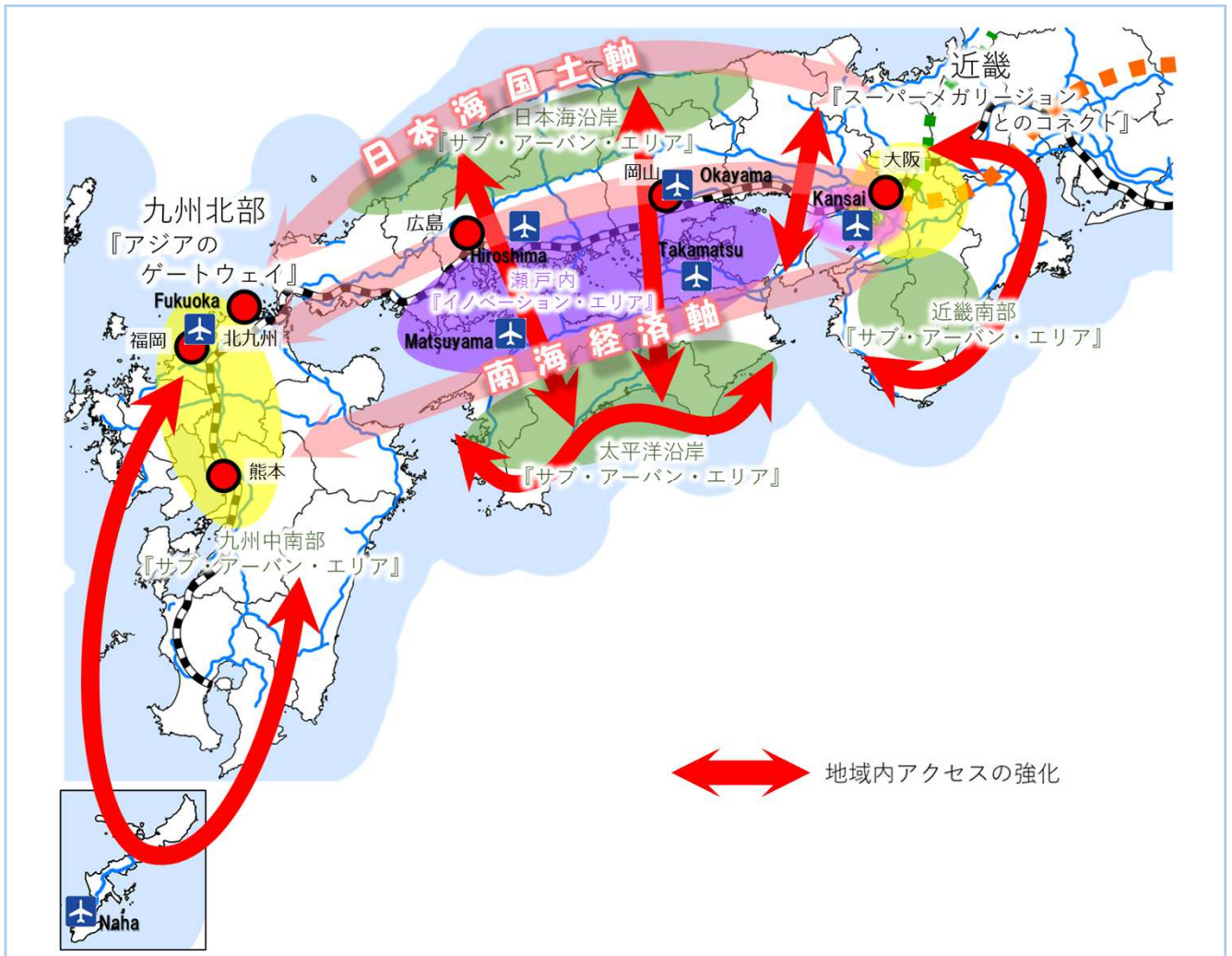
### 【3つの国土軸へのアクセスを強化し、西日本地域全体での連携を高めます】

西日本地域全体の連携を高めるためには、国土軸への地域内アクセスも重要となります。中国地域・四国地域の南北方向やサブ・アーバン・エリアから国土軸へのアクセスなどを強化し、西日本地域全体での連携を支援します。

### 【地域内アクセスの強化を提案】

国土軸へのアクセスを多様な交通手段で強化し、西日本の連携を強化

「西日本コネクテッドリージョン」を形成し一体的な発展を目指します。



## 新技術を活用した多様な交通手段の実現を目指します。

### 【新技術を活用して多様な交通手段を形成します】

国土軸においては、従来の鉄道や道路、航空、船舶に加え、リニア新幹線や自動運転・自動操縦の導入などにより、速達性の向上や移動負荷低減を目指します。

一方、国土軸へのアクセスや各地域内での連携においては、従来交通手段に加え、ドローンのように柔軟性が高い新しい交通手段を積極的に検討し、利用者密度の高くない地域においても持続可能な交通手段の確保を目指すことを提言します。

また、新技術を活用して、エネルギー効率が高く、環境負荷の小さい交通手段を形成し、ゼロカーボン社会の実現を支援することを提言します。

### 【多様な新技術の活用を提案】

国土軸や地域間アクセスの交通手段に、多様な新技術を積極的に導入  
エネルギー効率を高め、カーボンニュートラルを実現します。



**リニア新幹線**  
出典：JR東海



**ドローンタクシー**  
出典：イーハング



**車の自動運転技術**  
出典：ボルボ・カーズ



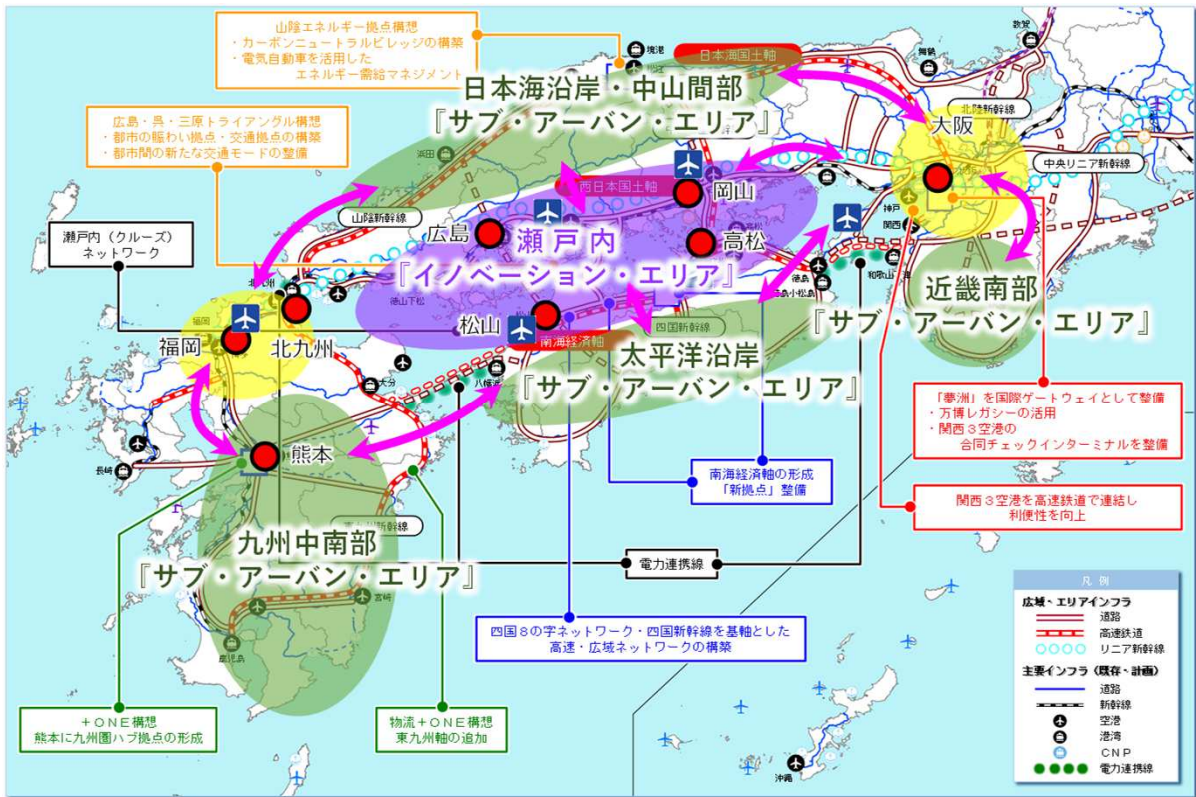
**船舶の自動運転技術**  
出典：日本船舶技術研究協会

### 3) 西日本コネクテッドリージョン構想への期待

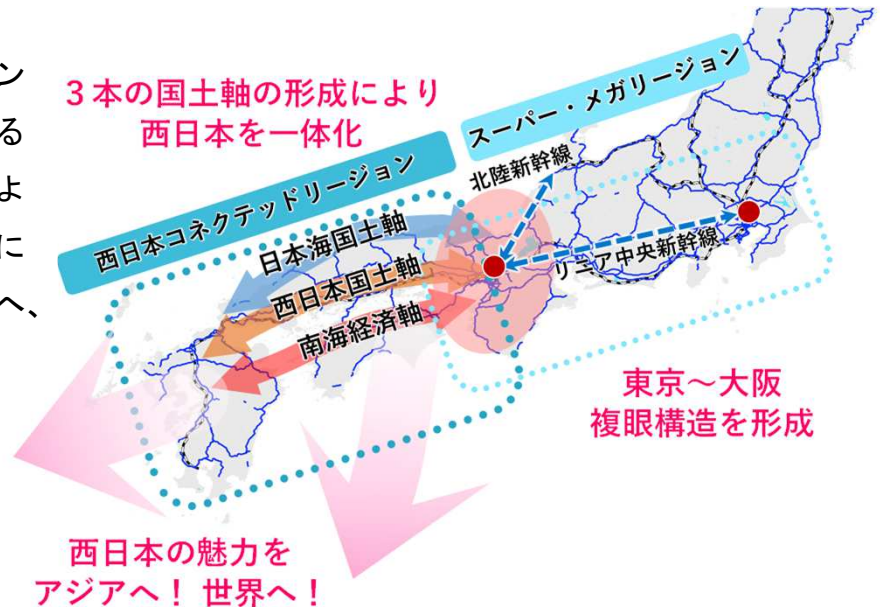
## 西日本コネクテッドリージョンの形成がもたらす効果

### 1. 西日本の地方創生

- 主要都市、サブ・アーバン・エリア、瀬戸内イノベーション・エリアの連携強化を図り、企業活動の競争力強化、地域経済・産業の活性化に取り組むことで、ヒト・モノ・カネ・情報呼び込み、魅力的で、個性と活気に満ち溢れた西日本の地方創生を実現します。



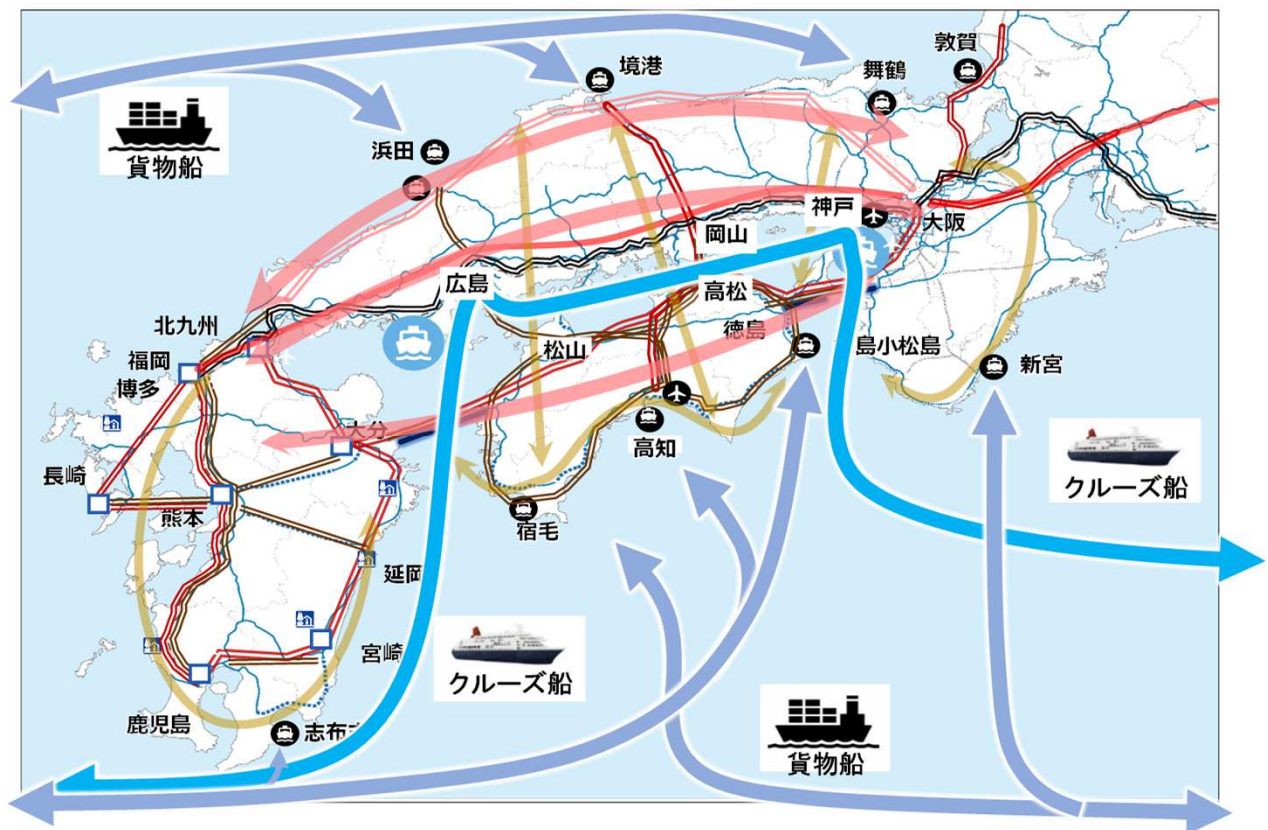
- さらに、スーパーメガリージョン構想と連結し、東京、大阪による東西複眼構造を形成することにより、ビジネス、観光客を西日本に誘導し、西日本の魅力をアジアへ、世界へ発信します。





## 2. 瀬戸内海物流の外海シフトによるクルーズ観光および沿岸地域の振興

- 瀬戸内海航路の超過密物流を外海に面した港湾にシフトして国際競争力のある物流ネットワークを形成するとともに、東西・南北・地域間アクセスや多様な交通手段を活用して、物流の新しい流れを創出します。
- 静穏で風光明媚な瀬戸内海の魅力をフルに活用して、クルーズ観光および沿岸地域の振興を図ります。
- さらに液化水素タンカーのカーボンニュートラルポート(神戸港、徳山下松港)へのアクセスを向上させます。



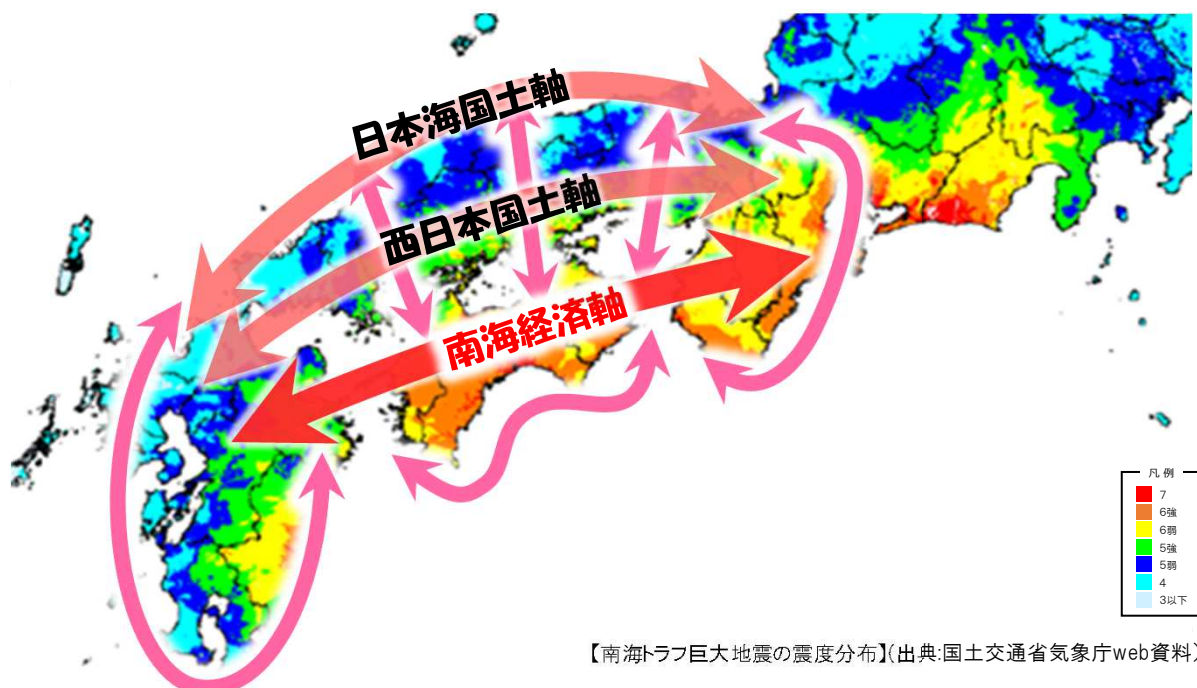
### 3. 脱炭素社会の実現

- 広域インフラ整備に合わせて、電力関係線の増強や洋上風力基地港湾の整備を実現することにより、九州西部海域に偏在する洋上風力の開発を促進し、脱炭素社会の実現に貢献します。



### 4. 南海トラフ巨大地震に対するリダンダンシーの確保

- 東西・南北の地域間アクセスの整備により、南海トラフ巨大地震など大規模災害時におけるリダンダンシーを確保します。



【南海トラフ巨大地震の震度分布】(出典:国土交通省気象庁web資料)

## 今後への期待

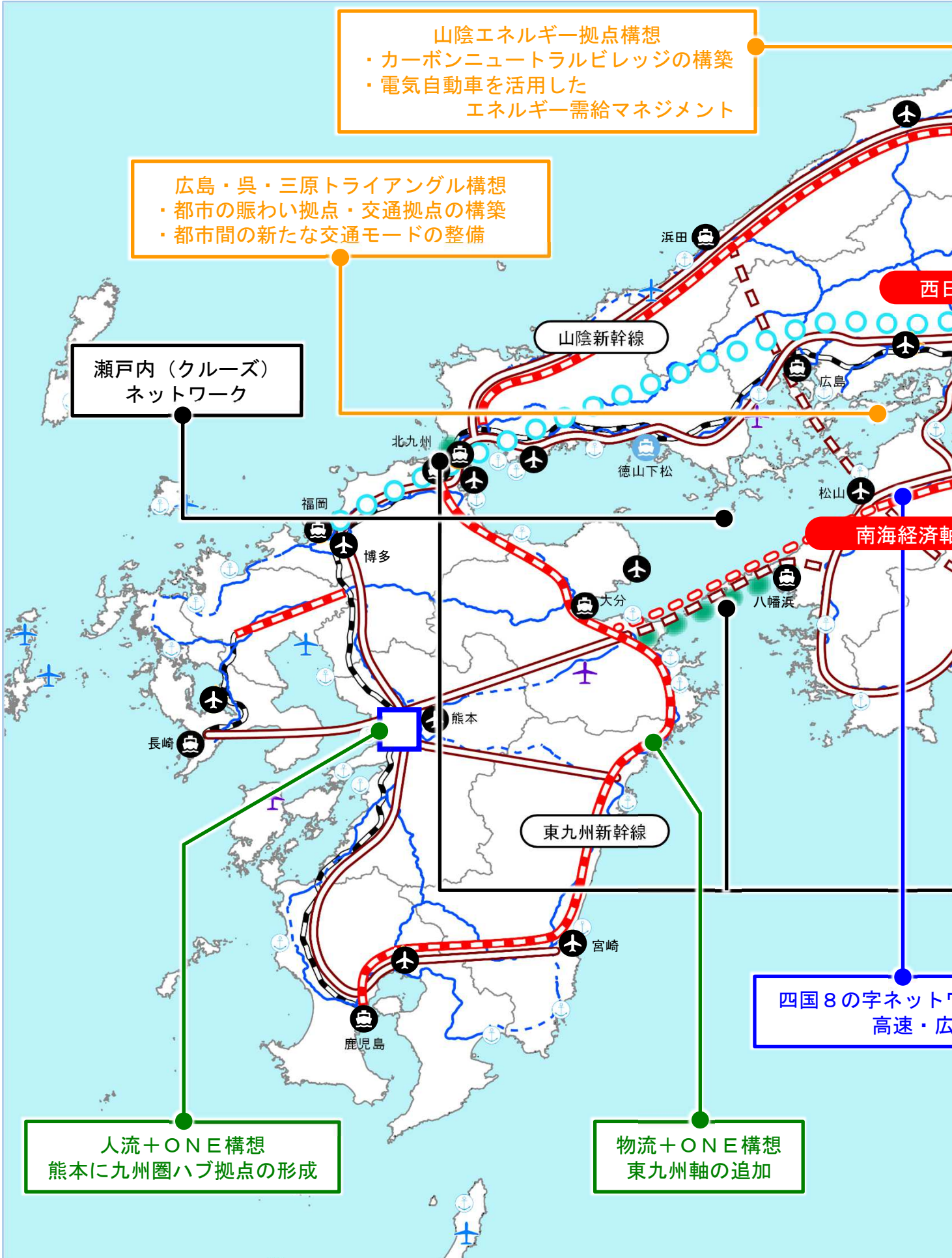
- ◆ 広域インフラネットワークの整備により西日本コネクテッドリージョンが形成されるためには、インフラ投資の効果を一般国民にできるだけわかりやすく伝える必要があります。そのためには、広域インフラネットワーク整備のフロー効果およびストック効果を明確にしたうえで、定量的に表現することが望まれます。
- ◆ さらに、広域インフラネットワーク整備の費用負担については、地域、地方および国の参画のもと、自助、共助、公助の枠組みや官民連携のあり方について議論を進める必要があります。
- ◆ 私たちは、すべての関係者で西日本の課題を共有し、将来のありたい姿の実現に向けて、西日本のグランドデザインを共創する流れを作っていきたいと考えています。



急速に過疎化が進む地方自治体や、同じ志を持つ（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）、土木学会などと連携して、西日本再生のための“ビッグピクチャー”を共有し、各地の取り組みを“広域インフラネットワーク”でつなげることで西日本全体に活力を吹き込み、

**理想の“未来のカたち”を共創します。**

#### 4) 西日本コネクテッドリージョン構想の全貌





### 西日本4支部合同提言の公表に寄せて

私たちは、戦後復興から高度経済成長期にかけて、先人が構築した貴重な社会インフラのおかげで、豊かで快適な生活を享受しています。そして、この時代を生きる土木技術者として、自然災害の激甚化、地方都市の過疎化、新型ウイルスのまん延、地球温暖化といった諸課題に対処すべく、日本の国土に必要な手を加え、日本固有の歴史、文化、自然遺産を大切に守り、安全、安心で、持続可能な国土を作り上げ、次の世代に、日本人の誇りとともに夢と希望を引き継ぎたいと願っています。

“Boys be ambitious! It’s your life, isn’t it?” 西日本4支部の若い力と情熱で、「未来のかたち」の実現に向けてこれからも前進し続けていただくことを心より祈念しています。

近畿支部長 吉津 洋一

### 西日本4支部は向こう三軒両隣？

『向こう三軒両隣』と、昔の人はご近所同士お互い助け合いながら、地域コミュニティを築いていたようです。中国地方から見ると、まさに向こう三軒分の四国に両隣の近畿・九州がそれにあたります。中国の立ち位置は、四国が存在しなければ太平洋と日本海に面した細い半島に見え、近畿と九州の大きな経済ポテンシャルを結ぶ通り道といわれています。しかし、実際は穏やかな瀬戸内海があることで、これを囲む4支部は美しい地形に見えます。

今回西日本4支部合同提言に加わり、“夢があると成長する”と言われるように、支部会員の中堅・若手を中心に夢を描き続けることを願っています。

中国支部長 小田 秀樹

### 四国の夢・未来を語る！

それぞれ特徴ある海に囲まれ、四国山脈が織りなす四季の変遷など、豊で多様な自然環境に恵まれた四国は、四国霊場88箇所にも代表されるように、独自の文化、歴史を育んでいます。約30年前に近畿、中国地方と結ぶ本州四国連絡橋の開通は、それまでの社会経済活動を大きく変えました。今、四国は全国に先駆けて人口減少、高齢化が進むなか、四国8の字ネットワークの早期完成など、南海トラフ巨大地震への備えを着実に進める一方で、今また四国4県が新幹線誘致に取り組むなど、新たな四国の魅力創出と活性化に向けた歩みを進めています。四国支部の若手技術者が描く、この『四国の夢”四国らしさ“』の提言を機に、彼らの大いなる活躍とさらなる飛躍を心から願い応援しています。

四国支部長 天羽 誠二

### 【ふしぎなポッケ】で【みんなの夢】を

「こんなこといいな♪ できたらいいな♪……ふしぎなポッケでかなえてくれる一♪」…

ICTの急速な進歩により、ドラえもんの世界が現実の世界に近づいてきました。今回の4支部合同提言「西からつくる未来のカたち～やっぱり未来は面白い方がいい～」は、【ふしぎなポッケ】がたくさん盛り込まれており、【みんなの夢】を叶えてくれそうです。これからはこの「合同提言」を活用して、若手技術者や大学生・高校生・小中学生たちと意見交換を行い、【みんなの夢】を膨らませていけたらいいと思います。そして【ふしぎなポッケ】が使える社会基盤を、自然環境を守りながら創っていくのは、私たち土木技術者の役割であることを知って欲しいと願っています。

九州支部長 田中 清

本合同提言書は、(一社)建設コンサルタンツ協会近畿・中国・四国・九州支部が2050年における西日本のあるべき姿について意見を交換し、「西からつくる、未来のカタチ やっぱり、未来は面白い方がいい。」と題して取りまとめたものです。これまでインフラ整備を含む国土のあり方については行政すなわち官により策定されてきました。これに対して、今回民間組織である建設コンサルタンツ協会の西日本4支部が地域の垣根を越えて合同で意見交換した結果を提言書として取りまとめたことは画期的な事と位置付けられるでしょう。

本意見交換会に学識委員として参加させていただき、折角の機会なので自由な発想での議論を活性化する方法として、「エンジニアリングファースト(Engineering First)」での取り組みを提案しました。日本での計画立案は積み上げ方式、すなわち各段階での課題を解決して取りまとめていくことが一般的です。しかし、この方式では取りまとめ段階ごとの実行可能性が制約となり、最終的な取りまとめ内容が保守的になる危険性があります。一方、今回提案した「エンジニアリングファースト」のスタンスは、まず最終形として「こんなものができたらいいな」という姿を描き、それを実現するためには「こんな技術が必要となるね」と上流側に遡っていくものです。そのスタンスでの自由闊達な議論の結果として、今回4支部から「2050年にはそれぞれの地域はこうあるべき、あるいはこうあって欲しい」という夢を提言することができたと思います。

また、今回の意見交換会に参画して、参加委員の皆さんが精力的に議論に参加するとともに成果を取りまとめる姿をみて、こんなことを考えました。建設コンサルタントに勤務している方は、職を選ぶ際には日本のインフラ整備のあるべき姿を検討するという大志を抱いていたでしょうが、職を得て日々の業務の世界でその夢を忘れかけていたのではないのでしょうか。そんな折に、本意見交換会が忘れかけていた志を思い出させる場となり、その原点帰りのエネルギーが将来を見据えた地域の在り方について熱く議論しその成果を取りまとめることにつながったと考えています。

このような観点から、本意見交換会のアウトプットは合同提言書となりますが、アウトカムは交換会に参加した建設コンサルタントエンジニアの意識の活性化であったと確信しています。そして、このアウトカムとして得られたスピリッツが、2050年の西日本のあるべき姿を実現するべき次世代のエンジニアにも引き継がれることを期待します。

建設コンサルタンツ協会

西日本4支部合同提言WG 学識委員

松江工業高等専門学校 校長 大津 宏康





---

参 考 资 料

# これまでの検討経緯

	近畿支部	中国支部	四国支部	九州支部
2015 ～2016	<b>道路研究委員会設立</b> <b>【第1期】</b> 近畿支部 2016年9月15日 『提言；立ち上がれ関西 新 しい道路整備2050』公表			
2017	道路研究委員会 <b>【第2期】</b>			
2018	<b>西日本4支部連携『意見交換会』を設立</b> 近畿支部主催で、『南海経済軸』及び『都市における公共交通』を主題に、 中国支部・四国支部・九州支部の技術者と意見交換 2018年度は5回の『意見交換会』を開催(開催場所：近畿3回、中国1回、九州1回) 近畿支部 2018年10月4日 『提言Ⅱ；関西の明日を創造 するプロジェクト2050』公表			
2019	道路研究委員会 <b>【第3期】</b>	技術部会道路委員会内に 国土交通計画WGを設立	ワーキンググループを設立	技術部会道路技術委員会内 に九州交通未来研究会を設 立
2019年度	西日本連携意見交換会を開催(3回：近畿1回、四国1回、九州1回)			
2020	各支部での国土利用のあり方を研究 2020年度 西日本連携意見交換会を開催(4回：近畿1回、中国1回、四国1回、九州1回)			
12月2日	<b>合同提言作成WGを設立し、提言書とりまとめに着手</b> 近畿支部『緊急提言！今こ そ立ち上がれ！“ミラーリング KANSAI”～ポストコロナの新 しい日本～』公表・シンポジウ ム開催 西日本4支部連携合同提言『西からつくる、未来のカタチ やっぱり未来は面白いほうがいい。』(中間報告)を発表			
2021	2021年度 西日本連携意見交換会を開催(3回)			
6月4日	第1回西日本連携意見交換会を開催 主催：近畿支部 議題：各支部の活動方針及び意見交換、合同提言の公表に向けた活動方針 参加者：近畿支部16名、中国支部7名、四国支部6名、九州支部4名(合計33名 Web併用)			
8月27日	第2回西日本連携意見交換会を開催 主催：九州支部 議題：各支部からの報告、テーマに対する意見交換 参加者：近畿支部7名、中国支部4名、四国支部3名、九州支部8名(合計22名 Web併用)			
11月19日	第3回西日本連携意見交換会を開催 主催：中国支部 議題：各支部からの報告、テーマに対する意見交換 参加者：近畿支部12名、中国支部9名、四国支部5名、九州支部2名(合計28名 Web併用)			
2022	2022年度 西日本連携意見交換会を開催			
5月25日	道路技術勉強会第30回シンポジウム基調講演にて合同提言の内容について発表			
6月9日	第1回西日本連携意見交換会を開催 主催：四国支部 議題：各支部からの報告、合同提言の公表に向けた意見交換、提言のとりまとめについて 参加者：近畿支部16名、中国支部2名、四国支部11名、九州支部3名(合計32名 Web併用)			
11月9日	建設技術展にてシンポジウムを開催 建設コンサルタンツ協会西日本4支部若手代表によるパネルディスカッションを実施			

2022年12月 合同提言

『西からつくる、未来のカタチ やっぱり、未来は面白いほうがいい。』公表

# 構成メンバー

## ■合同提言作成WG

近畿支部	寺尾 敏男	(株)ニュージェック	中国支部	木原 智晴	復建調査設計(株)
	野呂 竹志	協和設計(株)		酒井 秀和	復建調査設計(株)
	小椋 博和	(株)エイト日本技術開発		田辺 博樹	(株)荒谷建設コンサルタント
	中原 圭太	(株)建設技術研究所	九州支部	田中 智行	中央コンサルタンツ(株)
四国支部	大村 史朗	四国建設コンサルタント(株)		菊池 哲也	大日本コンサルタント(株)
	高砂 裕一郎	四国建設コンサルタント(株)		竹隈 史明	復建調査設計(株)

## ■近畿支部

学識委員	大津 宏康	松江工業高等専門学校			
道路研究委員会 運営委員					
委員長	北野 俊介	協和設計(株)	運営委員	藤村 一雄	(株)ニュージェック
副委員長	大西 博	(株)建設技術研究所	顧問	寺尾 敏男	(株)ニュージェック
運営委員	木村 是一	大日本コンサルタント(株)	アドバイザー	佐藤 俊通	(株)ニュージェック
道路研究委員会 西日本4支部連携WG					
WG長	野呂 竹志	協和設計(株)	:道路研究委員会	国土交通計画分科会委員長	
委員	加古 真一	中央復建コンサルタンツ(株)	:道路研究委員会	交通分科会委員長	
	内田 晶夫	(株)オリエンタルコンサルタンツ	:道路研究委員会	道路の賢い使い方分科会 委員長	
	伊藤 昭宏	中央コンサルタンツ(株)		池田 明彦	(株)トーニチコンサルタンツ
	中村 則信	東洋技研コンサルタンツ(株)		近藤 浩治	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	乾 健志	八千代エンジニアリング(株)		小椋 博和	(株)エイト日本技術開発
	中原 圭太	(株)建設技術研究所		鎌木 隆太	(株)日本インシーク
	秋山 道彦	大日本コンサルタント(株)			
(前委員)	鈴木 直司、富田 洋史、島本 真嗣、長谷川 雄一、川上 哲央、三荒 智也、椿 純一、青松 祥平、竹中 祥人、村井 宏徳、森脇 楓、田ノ畑 聡史、杉本 真莉				

## ■中国支部

道路委員会					
委員長	木原 智晴	復建調査設計(株)	委員	大田 健太郎	(株)福山コンサルタント
委員(WG長)	酒井 秀和	復建調査設計(株)		平井 一成	(株)福山コンサルタント
委員(WG副長)	田辺 博樹	(株)荒谷建設コンサルタント		和田 浩輔	(株)福山コンサルタント
委員	福光 年宏	(株)荒谷建設コンサルタント		松本 隼宜	(株)福山コンサルタント
	二神 健	セントラルコンサルタント(株)		吉田 健人	(株)福山コンサルタント
	浦元 智生	パンフィックコンサルタンツ(株)		藤原 大	復建調査設計(株)
	藤見 俊彦	パンフィックコンサルタンツ(株)		山田 健太	復建調査設計(株)
	傅 梟雄	パンフィックコンサルタンツ(株)			

## ■四国支部

WG長	大村 史朗	四国建設コンサルタント(株)	オブサーバー	秋山 道彦	大日本コンサルタント(株)
道路交通グループ			観光・まちづくりグループ		
リーダー	西山 毅	(株)芙蓉コンサルタント	リーダー	石川 ひとみ	(株)四電技術コンサルタント
委員	菊池 哲也	大日本コンサルタント(株)	委員	小笠原 誠	(株)四電技術コンサルタント
	小倉 晃一	(株)四電技術コンサルタント		中藤 亮太	(株)芙蓉コンサルタント
	高砂 裕一郎	四国建設コンサルタント(株)		池田 心太	(株)四電技術コンサルタント
防災グループ				大西 洋揮	大日本コンサルタント(株)
リーダー	長山 学史	(株)第一コンサルタンツ			
委員	西岡 辰起	(株)四電技術コンサルタント			
	又川 嵩哉	(株)第一コンサルタンツ			
	山口 貴大	大日本コンサルタント(株)	(前委員)	佐々木 幸之輔	

## ■九州支部

技術部会 道路技術委員会 九州交通未来研究会					
委員長	田中 智行	中央コンサルタンツ(株)	委員	佐々木 泰介	日本地研(株)
環境・都市等技術委員会				吉井 宏輔	パンフィックコンサルタンツ(株)
委員長	前田 武	(株)復建エンジニアリング		竹隈 史明	復建調査設計(株)
委員	清水 嘉一	(株)建設技術研究所		宮木 祐輔	八千代エンジニアリング(株)
	松島 智雄	玉野総合コンサルタント(株)		佐々木幸之輔	大日本コンサルタント(株)
	桶本 孝	中央コンサルタンツ(株)			
	川崎 謙次	(株)千代田コンサルタント			
	鬼塚 大輔	日本工営(株)		桂 謙吾	(株)建設技術研究所



**JCCA** *Japan Civil Engineering Consultants Association*  
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

近畿支部 〒540-0021 大阪市中央区大手通 1-4-10 大手前フタバビル 5 階  
TEL:06-6945-5891 FAX:06-6945-5892 E-mail:mail@kk.jcca.or.jp

中国支部 〒730-0013 広島市中区八丁堀 1-8 エイトビル 8 階  
TEL:082-227-1593 FAX:082-227-4940 E-mail:cginfo@cg.jcca.or.jp

四国支部 〒760-0066 高松市福岡町 3-11-22 建設クリエイティブビル 4 階  
TEL:087-851-5881 FAX:087-823-8730 E-mail:skinfo@sk.jcca.or.jp

九州支部 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-13-9 いちご博多駅東ビル 8 階  
TEL:092-434-4340 FAX:092-434-4342 E-mail:qsinfo@jcca.or.jp

(初版：令和4年 12月)